慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	第五章 グローバルな資質の育成と海外ネットワークの構築
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学 博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型「超成熟社会発展のサイエンス」
Publication year	2018
Jtitle	リーディングプログラム7年間の軌跡 (2017.) ,p.166- 197
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12005003-00002018-0166

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第五章 グローバルな資質の育成と海外ネットワークの構築

- 5-1. 海外インターンシップ
- 5-2. 短期留学(1~3期生)
- 5-3. 海外フィールドワーク

■ 5-1. 海外インターンシップ

2012年度採用RA(1期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	坂本 正樹	法学	Law Office of Rhoda Wilkinson Domingo	San Francisco
2	山本 優理	政策・メディア	BUILD - HQ - Redwood City	San Francisco
3	兪 浩洋	理工学	BMW/MINI of San Francisco	San Francisco
4	加藤 拓巳	理工学	Asian Week Foundation (Shanghai Sister City Committee)	San Francisco
5	吉岐 航	理工学	Wcities	San Francisco
6	安藤 大佑	理工学	Velos, Inc.	San Francisco
7	長尾建	理工学	Concept Art House	San Francisco
8	段牧	理工学	Wcities	San Francisco
9	永嶋 弘樹	理工学	Thailand Volunteer	Thailand



① SF の法律事務所(坂本)



② SF の学生支援 NPO(山本)



③ SF のカーディーラ(兪)



⑤ SFの Web 情報提供会社(吉岐)



⑦ SF のゲーム開発会社(長尾)



⑨ タイの幼稚園 (ボランティア) (永嶋)



④ SF の国際交流 NPO(加藤)



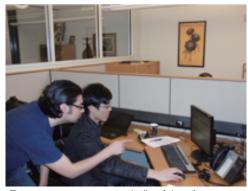
⑥ SF の医療管理ソフト会社(安藤)



⑧ SFの Web 情報提供会社(段)

2013年度採用RA(2期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	山田 翔士	薬学	RGA Tech	San Francisco
2	近藤 賢郎	理工学	MEDA	San Francisco
3	安部 義隆	理工学	appbackr	San Francisco
4	小西 隆介	理工学	BMW	San Francisco
5	齊藤 龍介	理工学	BMW	San Francisco
6	澤田 寛人	政策・メディア	Center for Media and Peace Initiatives	New York
7	中村 雄輝	社会学	East Side Institute	New York
8	小川 健司	理工学	Puzzled By	New York
9	若泉 謙太	医学	OECD	Paris



① SF のベンチャー企業 (山田)



② SF の雇用促進支援組織(近藤)



③ SF の人材派遣会社(安部)



⑤ SF のカーディーラ (齊藤)



⑦ NY の心理療法 NPO(中村)



⑨ パリの OECD 事務所(若泉)



④ SF のカーディーラ (小西)



⑥ NY の市場調査会社(澤田)



⑧ NY の国連のプロジェクト (小川)

OECD と「超成熟社会」について考えた2ヶ月間

RA(2期生)



若泉 謙太 博士 2 年 医学研究科

派遣先:OECD(東京、パリ)

期間:2014年2月-3月東京事前研修、4月-5月パリ

私が経済協力開発機構(OECD)でインターンシップを行った2ヶ月間で、日本での OECD シンポジウムとパリ本部での OECD フォーラムの両方を体験出来たのは、この 上なく貴重な経験であった。

・レジリエントな社会:世界規模の金融危機や大災害に対して被害を最小限にとどめ、 かつ、迅速な回復力を作り出せる社会

・包摂的な社会:立場の弱い人・物・組織などを排除せずにやさしく包み込める社会

上記 2 つは OECD の掲げる目指すべき社会のあり方であるが、これらは正に、我々の考える超成熟社会に他ならないと感じた。

また、OECD は一つの国家だけでは解決できないような問題にも、グローバルな視点で解決策を持っており、私にとってとても新鮮だった。日本の問題は、人口構造の変化と経済的成長率の落ち込みを抱える先進諸国に共通の問題である。解決手段として、多国籍間での協力や東南アジアなどの新興国の勢いを取り入れることなどが提案された。これには、協力相手国である新興国にとっても先進国とのつながりを強めることで、中所得国の罠を回避するという Win-Win な関係があった。

私はこのインターンシップを通じて、私のリーディングプログラムでのプロジェクトである「Science of Motivation」に、改めて強い新奇性を感じると共に、政策提言へ向けての使命感をもつことができた。なぜなら OECD は豊富なデータを元に多方面で的確な分析を行っているが、このテーマ、特に「社会問題としての慢性疼痛」に関して

は、ほとんど情報を持っていなかったからだ。

OECDでのインターンシップは、私にとってグローバル人材としての視野を培うと同時に、「超成熟社会発展のサイエンス」を追求する強いモチベーションとなった。



2014 年度採用RA(3期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	新津 敬一郎	理工学	BMW SF	San Francisco
2	池田 泰成	理工学	Cartoon Art	San Francisco
3	石川 岳史	商学	Oakland Asian Cultural Center	San Francisco
4	田中 裕樹	理工学	New People	San Francisco
5	岡本 翔平	経済学	CMPI Media	New York
6	高倉 優理子	文学	Japan Society	New York
7	杉浦 航	経済学	New York Business Consultants	New York
8	小林 優一	政策・メディア	JETRO NY	New York
9	稲垣 里芳 (当時)	文学	Japan Society	New York
10	為我井 美佳 (当時)	健康マネジメント	Children's Organization of Southeast Asia	Thailand
11	中尾 光良	薬学	San Kamphaeng Hospital	Thailand
12	Malik	理工学	理化学研究所(神戸)	日本

2015 年度採用RA(4期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	石川 貴啓	理工学	Appbackr	San Francisco
2	小島 康裕	理工学	East Bay Economic Development Alliance	San Francisco
3	佐野 岳史	理工学	Breathe California	San Francisco
4	眞明 圭太	商学	Oakland Digital (ODALC)	San Francisco
5	鈴木 敬和	理工学	BMW	San Francisco
6	髙野 裕介	社会学	Japan Society	San Francisco
7	髙橋 萌	社会学	San Francisco Travel	San Francisco
8	高畑 圭佑	理工学	California Department of Public Health	San Francisco
9	中島 悠佑	理工学	Community Technology Network	San Francisco
10	山岸優	理工学	One World Children's Fund	San Francisco
11	李 若菲	社会学	Whill	San Francisco
12	高橋 貴臣	経済学	Universal Giving	San Francisco

2016 年度採用RA(5期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	中島 由勝	理工学	Oakland Digital	San Francisco
2	宮本 佑	薬学	the U.S. Department of Energy	San Francisco
3	氏家 慶介	政策・メディア	Eviction Defense Collaborativeackr	San Francisco
4	水口 高翔	理工学	California Department of Public Health	San Francisco
5	角 晴美子	経済学	Universal Giving	San Francisco
6	久保 友理恵	政策・メディア	Elizabeth Gamble Garden	San Francisco
7	今給黎 薫弘	理工学	East Bay Asian Local Development Corporation	San Francisco
8	香西 孝司	理工学	The 1947 Partition Archive	San Francisco
9	池本 駿	経済学	College Truck	San Francisco
10	野口 遼太郎	薬学	Breathe California	San Francisco
11	横倉 瑳之	政策・メディア	Japan Society	San Francisco

2016 年度インターンシップ派遣 (5 期生)

2016 年度末(2017 年 2 月 5 日~ 3 月 31 日)に米国、サンフランシスコ周辺に 11 名の RA5 期生を派遣しました。地元の NPO、NGO、企業等で 5 週間の異文化 体験にチャレンジしたことで、ひとまわり逞しくなって帰国しました。



RAの感想(5期生)

オークランドに位置する IT 企業での Web サービス開発を通し、その意思決定の速さからシリコンバレーのダイナミズムを身をもって知ることができ、また、多様性の高いチームのマネジメント術の一端を習得できたという点で非常に貴重な体験となりました。(中島 由勝)

1ヶ月の英語生活と職業体験は、様々な面で自分を成長させてくれました。最初は 挫折で悩む日々でしたが、その後は今自分にできることをよく考えて行動することで 自分の道を切り開く感覚を味わうことができたのが特に印象に残っています。 (宮本 佑)

日本人一人の環境で働くということは、愉しいことよりも大変なこと辛いことの方が多かった。しかし、その分、日本にいる時以上に挑戦し、人生を考えるとても貴重な経験になった。今回の経験、そして一緒に過ごし乗り越えたRA同期との絆は宝である。(氏家 慶介)

私はカリフォルニア州の研究機関で勤務しました。振り返れば出会いに恵まれた5週間だったな、と。勤務先のインターン生から刺激を受け、現地で活躍する日本人には勇気をもらい…。そして何事も恐れずに"挑戦する"こと一世界で活躍するための核となるマインドを学びました。(水口高翔)

今回のインターンシップではアメリカで働くこと、そして日本ではなかなか出来ない 色々な国の人達と関わり合うという大変有意義な異文化交流を体験できました。これらを生かし、数々の新しいことに挑戦していきたいです。(角 晴美子)

インターンシップを通して、ネットワークの構築と仕事をするという意味を経験することができました。自らコミュニケーションをすることで、仕事が生まれ、広がることが学べたのが大きな収穫でした。とても有意義な経験ができました。 (久保 友理恵)

非常に充実し、かつ学ぶことの連続でした。これを乗り越えたことは自分にとって大きな自信になり何事にも挑戦する姿勢の礎になっております。インターンシップへ派遣してくださった皆様には感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。 (今給黎 薫弘)

今回の派遣で私は、メインである異文化環境での就労のほか、現地の UC Berkley の活動に参加するなど多くの経験を積むことができ、言語力を含むコミュニケーション能力の向上など、当初設定した目的に関わる多くの気づき、成長を得ることができたと感じています。(香西孝司)

私は College Track という貧困層の中高生の大学進学・卒業を支援する NPO で働きました。業務や生徒との交流を通じて経済格差と教育に根付く問題を肌で感じ、現在日本で行われている教育無償化議論にますますの関心を抱いております。
(池本 駿)

職場の皆さんに非常に親切に仕事を教えて頂き、ビジネスの場でのコミュニケーションの取り方や日系アメリカ人の方々との出会いなど、貴重な経験をさせて頂きました。 今後さらに英語力の向上に努めたいと思います。(横倉 瑳之)



2016 年度採用RA(6期生)

No.	氏名	研究科	ホストカンパニー	都市
1	榊原 優真	理工学	Leonardo	San Francisco
2	黒部 聡亮	理工学	Loudmouth Golf	San Francisco
3	鶏内 朋也	理工学	3VR	San Francisco
4	篠﨑 紗衣子	理工学	Oakland Youth Choir	San Francisco
5	丁飛	法学	Eviction Defense Collaborative	San Francisco
6	米山 慎太郎	理工学	Breathe California	San Francisco
7	八木 賢太郎	理工学	Oakland Digital	San Francisco
8	小関 健太郎	文学	Oportun	San Francisco
9	石田 陽一朗	商学	Japan Society of Northern California	San Francisco
10	嶋田 光希	医学	Child Family Health International	San Francisco
11	早坂 若子	政策・メディア	Asian Art Museum	San Francisco

2016 年度インターンシップ派遣 (6 期生)

2018年2月下旬、6期生11名の海外インターンシップ受け入れ先である米国(サンフランシスコ)近郊にあるホストカンパニー11社を訪れた様子を紹介します。5週間のインターンシップも4週目に入り、6期生は日本と米国での文化や慣習の違いを学びつつ、それぞれの持ち味をいかしながら職場に貢献していました。

小関 健太郎 (文学)

 訪問日
 2月28日(水)

 訪問先
 Oportun (新規)

担当者 Tyson Kopczynski

業種主な業務 成長期にある Fintech の企業。約20

名のセキュリティチームにおいて、侵入

テストを行いアプリのバグを探す。

その他の活動 主専攻に関係するスタンフォード大学

の教員を訪問。多数のIT企業やコン

ピューター博物館等へ訪問。



作業中の小関君

訪問日 2月28日(水)

訪問先 Loudmouth Golf (新規)

担当者 Marcie Low

(業種主な業務) 派手なゴルフウェアで有名なスポーツ

ウェアのアパレル製造販売会社。10 数名の職場で、メールシステムの改善、

既存の管理システムの改善。

その他の活動 ホームパーティー参加、同僚と仕事後

にショートコースのゴルフ。

黒部 聡亮(理工)



作業中の黒部君

嶋田 光希 (医)

訪問日 2月28日(水)

訪問先 Child Family Health International(新規)

担当者 Ally English

業種主な業務発展途上国での公衆衛生活動の

プロジェクトに米国内の医学系学生を派遣する NGO。学生のネームタグの準備、SNS・ウェブサイ

トの更新、情報収集。

mescario

その他の活動 他の学生と車で San Jose に旅行。

早坂 若子(政メ)

訪問日 3月1日(木)

訪問先 Asian Art Museum(新規)

担当者 Paula Rampe

業種主な業務 サンフランシスコ市の美術館。Information

センターでの案内、コート預かり。自ら交渉 して、物販整理、人事での書類整理、Tea ceremony、キュレーターのサポート等いろ

いろな業務を経験。土曜日出勤で、日月が休み。多くのボランティ

アスタッフがおり、彼らとの会話時間が長い様子。

その他の活動デザイナー等を訪問。

榊原 優真(理工)

訪問日 3月1日(木)

訪問先 Leonardo (新規)

担当者 Danielle Siembieda

業種主な業務 学際研究の学術出版・イベント企画運営

を行う NPO にて、Web 制作、検索広告の管理、Web 更新、Web サイトの最適化。職場には 3 名のスタッフがいるが、Web 関係はリモートで働く 1 名と

協業している様子。



榊原君と 担当者ら

【その他の活動】 Mercari、Dropbox で働く知り合いにアポをとり、他の RA と訪問。

八木 賢太郎(理工)

訪問日 3月1日(木)

訪問先 Oakland Digital (3回目: 眞明君、中島君)

担当者 Shaun Tai

業種 主な業務 NOP のデジタルスタジオにて、デザ

イン系の学生をリクルートするため 10以上の大学を訪問。アプリ開発 は初めてであり、担当者に学びなが らデプロイ方法を学ぶ。その仕事を Google でプレゼンする機会を得る。

その他の活動 Google、スタンフォード大学訪問。



訪問日 3月1日(木)

Oakland Youth Choir (新規) 訪問先

担当者 Keri Butkevich

業種 主な業務 若者への音楽教育やコーラスのイベント

> を開催する NPO にて、イベントで使用 するメッセージカードやフライヤーの作

成、SNS の更新

篠﨑 紗衣子 (理工)



篠崎さんと担当者

その他の活動 LA へ一人で旅行など多数外出。

丁 飛 (法)

訪問日 3月2日(金)

訪問先 Eviction Defense Collaborative (2回目:氏家君)

担当者 Kimberly Craige

業種 主な業務 立ち退きなどで困っている低所得者の

権利を守るために法律などの情報を 提供する NGO。相談内容のノートテ イク、裁判所への連絡、訴訟や和解

の準備など。



丁君と担当者、メンター

石田 陽一朗(商)

訪問日 3月2日(金)

一訪問先 Japan Society of Northern California(2回目:横倉君)

担当者 Eileen Tanaka

⇒Miho Greenberg へ引き継ぎ

業種 主な業務 日本と米国の関係を促進する

NPO 団体にて、データーベース の更新、イベントスタッフの補助。



石田君と担当者ら

米山 慎太郎 (理工)

訪問日 3月2日(金)

訪問先 Breathe California(3回目:佐野君、野口君)

担当者 Elias Trevino

(業種主な業務) 禁煙のアドボカシー活動を行う

NPO にて、ニコチンパッチの整

理、データ分析。

その他の活動デザイナー等を訪問。



訪問日 3月2日(金)

訪問先 3VR(新規)

担当者 Masayuki Karahashi

⇒転職のため他の方が対応

(業種 主な業務) 360 度 x 180 度の監視カメラで撮影

した動画を見るための VR アプリの開発する 10 名のプロジェクトに参加。

鶏内 朋也 (理工)



鶏内君とメンター、担当者

その他の活動現地でのサッカーやバドミントンのスポーツイベントに参加。

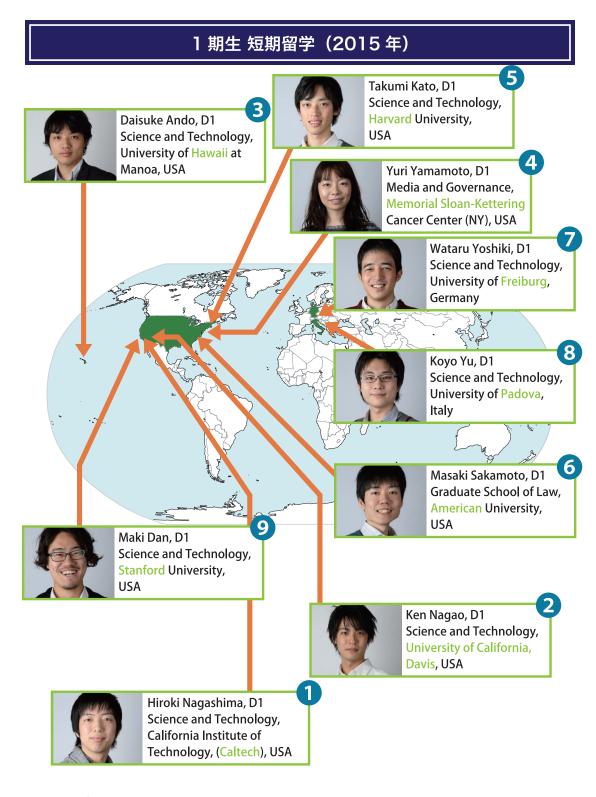
| 5-2. 短期留学(1~3期生)

本博士課程教育リーディングプログラムでは、共通科目のうち必修科目の一つとして、博士課程における短期留学派遣を設けています。国際的に優れた研究実績のある大学や研究機関において、主専攻に関わる研究を実施することで、その結果を博士論文の特定の章に反映するとともに、海外ネットワークを形成することを期待しています。また、博士学位審査の際に留学先の指導教授等に副査を務めていただくことを推奨しています。

2015年度、1期生9名は欧米の大学・研究機関に短期留学へと飛び立ちました。1期生は、短期留学中の様子を毎月の活動レポートとして報告しました。それらの月報から、それぞれが異なる文化に身を置きながら、研究活動に邁進し成果をあげるとともに、様々なイベントやコミュニケーションを通じて、大きな刺激を受けた様子が伝わってきました。

2016 年春までに、9 名全員が日本へ戻り、リーディングプログラムの最終学年として、日々、就職活動、博士論文執筆、リーディングプログラムの活動に励みました。海外での経験を培った 1 期生の姿は頼もしく、専門性と幅の広さ双方の素養を一段と磨いたように見えます。

現在、1期生に続いて2期生、3期生が短期留学に派遣され新たな挑戦が始まっています。ここでは、1期生の短期留学派遣先と短期留学中の活動の一部をご紹介します。



- 2015 年 ———————— 7月〜吉岐、9月〜安藤、段、長尾、永嶋、兪、山本、1 月〜加藤、坂本;基本 6 ヶ月

Name Hiroki NAGASHIMA Study Abroad Caltech
The first major Science and Technology The second major Economics

Burdick Group, Department of Mechanical and Civil Engineering, California Institute of Technology (Caltech), Pasadena, CA, USA

1 Research

Host

In my overseas study, I have carried out the research on the trajectory planning of the spherical robot for multi-planetary exploration. Beginning with the learning on the mathematical background, I have contributed to system modeling and computer simulation of the optimization process. As the final presentation, we have held an international workshop between Burdick group and Katsura laboratory in March. Throughout the entire period, I have much experienced about not only an emerging research but also cultural differences, English environment, beautiful sights/places and peoples' kindness. I would like to express my gratitude to everything.

Name Ken NAGAO Study Abroad UC Davis

The first major Science and Technology The second major Business and Commerce

Visualization and Interface Design Innovation (ViDi) research group, Department of Computer Science, University of California, Davis, CA, USA

2 Research

Host

I started collaborative research into immersive visualization with some members of the laboratory where I attended as a visiting scholar. I made the prototype system, and I could publish the result of the research during my stay in the United States. Through the six-month stay, in addition to such research life, I have experienced a lot of activities, including recreations such as sports, trips and home parties. I found both differences and similarities between American life and Japanese life, all that I think important to learn to be a global person.

Name

Daisuke ANDO

Study Abroad

University of Hawai'i

The first major Science and Technology The second major Business and Commerce

Host

Laboratory for Advanced Visualizations and Applications (LAVA), Department of Information & Computer Science, University of Hawaii at Manoa, Honolulu, Hawaii, USA



Research

I have been designing and implementing Content Espresso, a distributed storage system for globally large file sharing, since 2011 at Kaneko Lab., Keio University. The purpose of my visiting University of Hawaii is to conduct a joint research with SAGE2 project at LAVA (Laboratory for Advanced Visualization and Applications). SAGE2 is a remote collaboration tool using a large-scale tiled displays. Through this visiting, I have learned how to proceed the research project, how the Americans study and work at University, and the culture of Hawaii. These experiences will be helpful for my life from now on.



Name

Yuri YAMAMOTO

Study Abroad

Memorial Sloan-Kettering Cancer Center Medicine

The first major Host

Media and Governance (Systems Biology); Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, New York, NY, USA

The second major

Research

I have spent six months studying abroad at the Memorial Sloan Kettering Cancer Center in New York. During these six months, I challenged myself to a lot of things, particularly a new research method. Although the research object was the same, it was a quite difficult for me to understand the method in English completely. Actually this experience was so wonderful for me to think my research deeply and to learn the importance of process to grasp new things. Also, I did realize very much the importance in the friendship beyond countries and cultures.

Name

Takumi KATO

Study Abroad Harvard University

The first major Science and Technology The second major Medicine

Host

School of Engineering on Applied Science, Harvard University, Cambridge, MA, USA



Research

The reason why I selected this group is they have good fabrication environment and great technique for microdevices in photonics. I have researched on "silica glass" devices in Keio and this opportunity of research internship gave me to study "silicon" and "diamond" devices. Therefore, my work was related to fabricate devices. Dr. Stefan supervised and educated me for research matters. Through this internship, I learned much not only on research work but on human relationship between Americans, Europeans and Asians in the research world.



Name

Masaki SAKAMOTO

Study Abroad American University

The first major Law (Political Science)

The second major Science and Technology

Host

Washington Semester Program, American University, Washington, D.C., USA



Research

During the four months at American University, I have participated in Washington Semester Program, where students all over the world learn through the experiences in the capital of the world greatest country. Every week I attended a small-group discussion class of U.S. Foreign Policy while working as an intern at MIT Washington Office. Besides, I often went to many academic and political events in DC and cultivated a network with many students and experts in multiple fields. It was undoubtedly a semester in my lifetime.

Name Wataru YOSHIKI Study Abroad University of Freiburg

The first major Science and Technology The second major Business and Commerce

Host Department of Microsystem Engineering, University of Freiburg, Freiburg im Breisgau,

7 Research

I have tackled with one research project with a German doctoral student. Since the project was not the same as the theme of my Ph.D. thesis but was not so far from that, I was able to not only contribute my expertise to the project but also learn a lot of knowledges and skills from the project. Besides research activities, I was invited to home parties hosted by colleagues several times and went to a Christmas market with the students in the host group.

Name Koyo YU Study Abroad University of Padova
The first major Science and Technology The second major Medicine

Host Department of Technical and Management of Industrial Systems, University of Padova, Padova, Italy

Research
I have visited Padua University and San Camillo Hospital in Italy. The aim

I have visited Padua University and San Camillo Hospital in Italy. The aim of this visit was to develop a rehabilitation system for stork patients using surface EMG armband. I am filled with a sense of accomplishment with the collaboration with the students in Padua University and doctors in San Camillo Hospital. The developed software has also been received a high mark by other laboratories in Padua University. I have also build a close relationship with a student in Italy and we came bake to Japan together for helping his thesis.

Name Maki DAN Study Abroad Stanford University
The first major Science and Technology The second major Business and Commerce
Host Civil and Environmental Engineering, Stanford University,
Stanford, CA, USA



I have stayed in John A. Blume Earthquake Engineering Center of Stanford University for six months. The aims of this visit were to learn frontier researches in Stanford, to apply these researches to my own research and to conduct a research that would be included in one of the chapters of my Ph.D. thesis. As a result, I was able to achieve enough outcomes. In addition, I aimed to expand my international network, so that I have attended many networking events not only in Stanford University but also in Silicon Valley.



短期留学レポート (1期生)



ドイツ・Freiburg 大学での研究留学

7

吉岐 航

学年:博士課程2年(4月から), RA2012

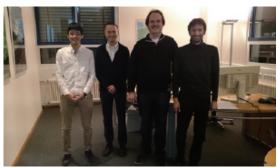
研究科:理工学研究科

留学先: University of Freiburg, Germany 留学期間: 2015年7月~2015年12月

私はドイツ・Freiburg 大学マイクロシステム工学科の Buse 教授の下で、訪問研究員として半年間研究を行った。Freiburg はドイツの南西の端に位置する小さな大学都市である。今回の研究留学の目的は、日本で行っている研究テーマとは少し異なるテーマに携わることにより博士論文の内容をより豊かにすること、そして日本人のいない完全に異文化の環境で研究を行うことでグローバルな環境の中で働く経験を得ることであった。

滞在中は、現地の博士学生と共同して一つの研究プロジェクトを遂行した。自分の日本における研究テーマとは遠からず近からずといったものだったので、プロジェクトに貢献しつつも自分の勉強にもなるという、Win-Winの関係を築くことができたと思う。いざ研究室に加わってみると私以外のメンバーはほぼドイツ人だったことには少々閉口したが、全員が流暢な英語を話せる上に非常にフレンドリーだったので、快適な研究生活を過ごすことができた。また、隔週で開かれる Optics Colloquium では主に欧州の著名な研究者の講演を聞くことができ、大変有意義であった。

研究以外では、研究室の学生主催のホームパーティーに招待されたりクリスマスマーケットに乗り出したりなど多くのイベントがあり、日本から離れていることによる寂しさを感じることはあまり無かった。また、週末にはケルンやベルリンといったドイツ各地やドイツと国境を接するスイスやフランスなどへも一人で繰り出すことでき、観光を楽しんだ。仕事とプライベートをしっかり分け、その両方に全力を尽くす"ドイツスタイル"の生活を学ぶことができたと思う。



受け入れ先教員との写真



リーディング RA と行ったドレスデンへの旅行

短期留学レポート(1期生)



スタンフォード大学での半年間

9

段牧

学年:理工学研究科 博士課程 2 年 (2016 年 4 月から), RA2012

留学先:スタンフォード大学,米国 期間:2015年9月~2016年2月

私はスタンフォード大学の John A. Blume Earthquake Engineering Center にて半年間訪問研究員として滞在した。今回の短期留学では、自身の博士研究をさらに豊かにするために、スタンフォード大学で行われている最先端の研究に触れ、それを自身の研究に活用し博士論文の一部となるような研究にすることを主な目的としていた。結果、スタンフォード大学の受入教員に短期留学以降も博士論文執筆に向けて協力をしていただけるまでの成果を上げることが出来た。さらに海外ネットワークを広げることも目的としており、学内外問わず様々な交流イベントなどにも参加した。

スタンフォード大学は名だたる企業が密集しているシリコンバレーに位置しており、様々な分野において最先端の研究が行われている。また研究以外にも、各界の著名人による講演や様々なワークショップなど、モチベーションを刺激するイベントがたくさん行われていた。滞在中のスケジュールとしては、基本的に平日は研究室にて研究を行い、週一回程度、受入教員とのミーティングを行っていた。また、興味のある講義やイベントなどが開催されている時はそちらに参加していた。私自身の研究テーマである地震工学や企業・地域防災というテーマに関しての講演は数こそあまり多くはなかったがどれも興味深いものであり、そういった講演を聞くことはモチベーションを大いに高めることになった。また、流行りの分野でもある人工知能などに関する講演などは教室に入りきれないほどの聴講者がいる時もあり、シリコンバレーという場所の勢いを感じた。

休日には、何度かルームメイトや大学の友人とスポーツ観戦に出かけたり旅行に行ったりした。また半年間の滞在中、ハロウィーンやサンクスギビングなど、アメリカならではの行事もあり、アメリカという国を大いに堪能できたと思う。カリフォルニアの気候はとても過ごしやすく、休日にしっかりとリフレッシュが出来たので、研究がとても捗る環境であったと感じた。

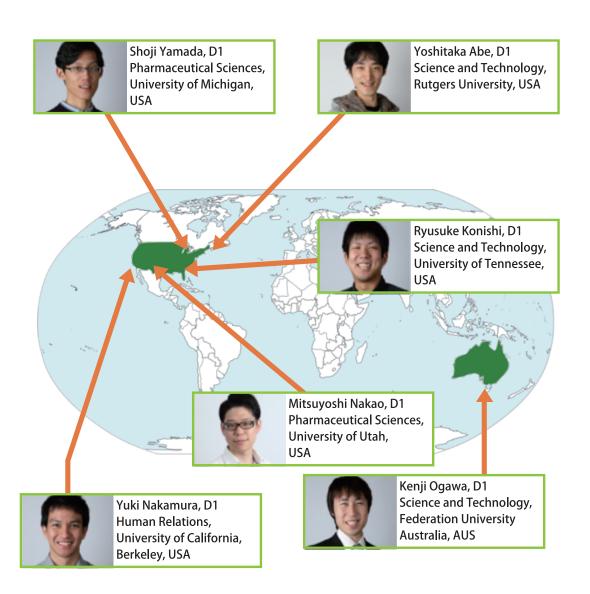


ヨセミテ国立公園への旅行



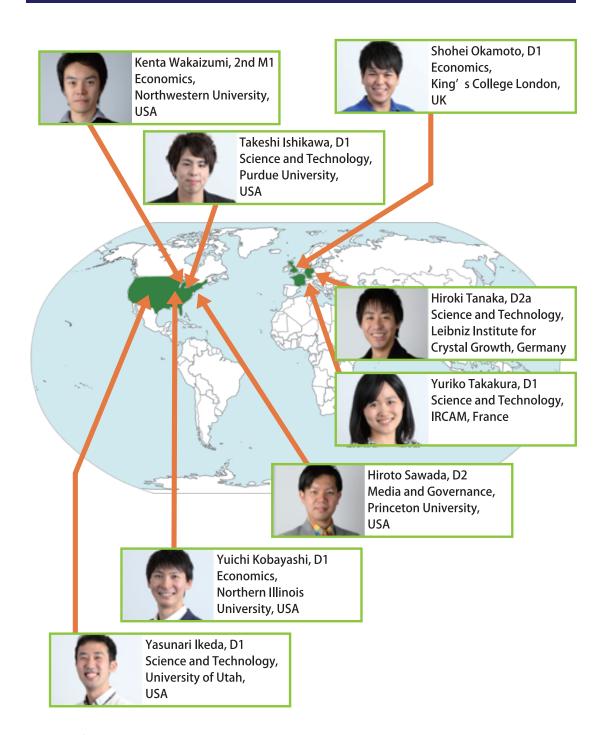
Workshop で参加者と議論

2 期生 短期留学 (2016年)



2016年 — 8月~小川、安部、中尾、11月~中村、1月~山田;基本 6ヶ月

3期生 短期留学 (2017年)



2017年 秋学期(予定)~澤田、田中、若泉、高倉、岡本、石川、池田、小林;基本 6 ヶ月

5-3. 海外フィールドワーク

活動の事例: 米国三都市訪問

坂本正樹(1期生)

シェールガス革命と米国のエネルギー事情に関する ヒアリングと現地調査



訪問先

- 1) ロングビーチ
 - · MIECO Inc. 訪問
- 2) ヒューストン
 - ・丸紅米国会社ヒューストン支社訪問
 - ・Eagle Ford(シェールガス)地帯視察
- 3) ワシントン DC
 - · 丸紅経済研究所訪問
 - · CSIS 訪問
 - ・ワシントン DC 市内見学

活動時期 2014年9/15-23、9日間

Long Beach

Houston

Washington D.C.





Mr. Masahiro Yamazaki (CEO, MIECO)





(right)







Mr. Ito (left), Mr. Sadamasu 左:ジェイン・ナカノ氏 (CSIS) 右:李雪連氏 (CSIS)

海外フィールドワーク

活動の事例:認知症プロジェクト

「認知症の人の社会共生と課題解決」のための学生による 国際交流・共同研究プロジェクト

2016 (平成 28) 年度より、本プログラムは認知症施策に関わる 2 年間の社会課題解決型プロジェクトに参画しています。「認知症を含む高齢者の社会共生」をコアテーマとし、認知症を患っても地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを様々な主体との連携によって実施しています。2016 (平成 28)年度は、リサーチに基づき問題点を抽出し、解決策を策定します。そして 2017年度は、その解決策を社会の中で試行し、最終的には自治体や国への政策提言を目指します。

なお、本プロジェクトは、川崎市・渋谷区との自治体連携、慶應義塾大学・ 専修大学・青山学院大学との大学連携、オランダの Delft University of Technology (デルフト工科大学) との国際連携、NPO 法人ピープルデザイン 研究所との団体連携など、多様な主体との連携により、各々の持つ様々な知的・ 人的資源等を活用した国際交流・共同研究プロジェクトです。

デルフト工科大学との国際交流および現地施設見学等

2017年2月、日本での認知症プロジェクトの成果を、デルフト工科大学の大学院生や教員へ紹介し、意見交換を行いました。そして、オランダならではの認知症施策の現場を見学し、取り組みを学びました。

RA 小林優一、岡本翔平、平尾美佳、角 晴美子、今給黎薫弘

訪問先 1) Zorgboerderij Het Boere Erf(ケア農場・ブーラ農園)

2) Delft University of Technology (デルフト工科大学)

3) Hogewey (ホグウェイ)

4) Alzheimer Café (アルツハイマーカフェ)

5) VUmc Amsterdam(アムステルダム自由大学医療センター)

活動時期 2017年2月

1) Zorgboerderij Het Boere Erf (ケア農場・ブーラ農園)

ブーラ農園では、認知症ケアの一環として 農作業やお菓子作りなどを行っています。 入居者が室内に閉じこもらないよう、室外 栽培や牧畜を行い、栽培から収穫、販売も 行っています。入居者の症状によって仕事 を割り当てるのではなく、その人にできる 仕事があれば、誰でも入居可能な施設です。



日本ではまだ、農業とケアを組み合わせている施設は少なく、このような取り組みを広げて行くことが今後大切になると実感しました。

(RA5 期生 理工学研究科 修士課程 2 年 今給黎薫弘)

2) Delft University of Technology(デルフト工科大学)

認知症プロジェクトの国際連携先であるデルフト工科大学主催の研究発表会へ参加しました。私たちは、認知症に関する日本の現状(特に、オランダと日本の平均寿命の違いや、認知症施策に関わるエビデンス)を紹介しました。そして、これまでの私たちの取組みとして、「書道セラピーを通じ



た認知症患者のコミュニティー創出」、「認知症カフェのプロモーション」、「ケアプラン作成プロセスの簡潔化」、「フェアトレード商品として農作物 (D-mark)を栽培する」アイデアを発表しました。お互いの課題について、参加大学の学生に疑問を投げかけ、意見交換を行いました。

(RA3 期生 経済学研究科 博士課程 1 年 小林 優一)

3) Hogewey(ホグウェイ)

Hogewey は、認知症の人のための居住空間です。アーバンスタイル、コスモポリタンスタイル、ムスリムスタイルなど、多様な住居スタイルがあり、全部で23の部屋が用意されています。入居者は、これまでの生活背景に近い人同士数名でグループになり、お風呂や茶の間を共同利用しています。私たちが訪問した住居では、3名の女性入居者が茶の間に集まり、それぞれの時間を過ごされていました。入居者はそれぞれ個室を持ち、自宅のような印象がしました。施設の人に話を聞くと、認知症の人が昔の家に帰りたいと言うことはあまりないそうです。

その理由は、入居者が「ここが私の住まいである」と安心できているからとおっしゃっていました。重度の認知症と診断された人が、このように穏やかに、しかも残存能力を活かしながら生活している様子は、にわかには信じられませんでした。

このような保護された広い場所のない一般的な施設であれば、認知症の人が住居空間の外に出たいと言えば、それは徘徊リスクが高いとみなされてしまうかもしれません。しかし、Hogewey には住居空間の他に、池や噴水やベンチがあり、スーパーやレストラン、映画館、芸術活動の部屋などもあります。

私は入居者の人にとって快適な環境を提供することは、必要なケアの量 を減少させるかもしれないことに気づきました。日本における快適な環 境は何か、これからの課題として考えていきたいです。

(RA3 期生 健康マネジメント研究科 博士課程 1 年 平尾美佳)

4) Alzheimer Café(アルツハイマーカフェ)

私は日本で認知症の方々の Quality of Life を向上させるために認知症カフェを広めることに関心をもっています。認知症カフェを広めるには、どうすれば良いのかを探るため、先進的なケアが行われているオランダのアルツハイマーカフェを見学しました。



オランダのアルツハイマーカフェは、20年上以上前に設立され、誰でも認知症のことについて知りたい人、語りたい人が無料で参加できます。開催と同時にとても人気が出て、オランダ全土に広がり、今では250か所以上あります。メディアを通じて、認知症や認知症カフェを広く宣伝することで、オランダの人は認知症に対する"タブー"を乗り越えていきました。驚いたことは、Alzheimer Nederlandのウェブサイトに若い人々が興味を持ち、共感するようになったことです。

日本の認知症カフェと違う点は、オランダではアルツハイマーカフェがあくまでも情報を提供する場、話すことによって交流を深める場であって、働いたり工作をしたりするというアクティビティを提供する場ではないことです。日本の認知症カフェの良さを活かして、誰もが訪問したくなる認知症カフェのモデルを考えてきたいと思います。

(RA5 期生 経済学研究科 修士課程 1 年 角 晴美子)

5) VUmc Amsterdam(アムステルダム自由大学医療センター)

自由大学医療センターでは、本センターで開発された認知症診断ツール"

Observation List for Dementia: OLD" について学びました。" OLD" は、認知症の初期診断を行うための指標です。" OLD" を用い、従来、医師の診察だけで判断していた認知症の診断精度の向上を目指してい



ます。実際、担当医が問題ないと判断した患者のうち、"OLD"によって約 20%の患者に初期症状があると判定され、実際に認知症の診断が認められた事例もあるそうです。

このようなツールを導入することにより、精度の高い診断を行うことができます。本フィールドワークを通じて、社会の中でどのように認知症の問題に対処していくべきなのか、一端を垣間見ることができました。

(RA5 期生 理工学研究科 修士課程 1 年 今給黎薫弘)



グーセンス先生による開会挨拶



認知症プロジェクト成果発表会